## 山形支店 山形県鶴岡市は2020年に、 出張講義 「SEADS」研修生に

感想が寄せられました。 ことができ有意義だった」などの があり、また「具体的な事例を知る の資金調達について具体的な質問 説明しました。研修生から、就農時 就農の難しさ、対策などについて 規就農事例や失敗事例から、新規 営する人材を育成しています。 業経営の始め方」と題し、講義。新 心の高い若者を募集し、農業を経 称:SEADS)」を開設。農業に関 |鶴岡市立農業経営者育成学校(通 山形支店では、「事例から学ぶ農

研修生9人 10月21日、於:鶴岡市、参加者

滋賀県拠点と共催

## 大津支店 熱い議論 人材活用の課題に

若手農業経営者6人、近畿農政局 り、熱い議論が交わされました。 を叶える場になる」との発言があ 成をテーマとしました。出席者か 自由闊達に意見交換をし、継続的 と農政の新しい展望を探るため 激しい環境変化のもと、農業経営 らは「従業員が働きやすい環境を 若手経営者有志が課題を持ち寄り、 つくることが重要」「従業員の目的 に交流することが会の目的です。 次世代農業経営勉強会」を開催。 第1回の今回は、人材の採用、 11月11日、於:大津市、参加者 国内市場縮小、気候変動などの



# 広島支店 取り組みに学ぶ 経営の多角化めざす

仙台支店

次の一手を考える コロナ禍における

修会を毎年開催しています。 イザーのスキルアップを目的に研 広島支店では、農業経営アド

に重要かを力説しました。 家のアドバイスや情報提供がいか 展開などを発表。そのうえで、専門 経営の紹介とともに、今後の事業 えイチゴ観光農園を開始したコマ ツナなどを生産する中池哲平氏が セミナーでは、コロナ後を見据

れました。 が得られた」などの感想が寄せら 活動をおこなううえでのヒント

農業経営アドバイザー他42人



ナーを6~9月に開催。農業、宿泊

中小機構と連携しオンラインセミ

種の経営者の参加がありました。 業、飲食業、製造業などの多様な業 を検討する機会として、東北大学、

コロナ禍における事業の再構築

参加者からは「今後アドバイザ

11月24日、於:広島市、参加者

回は、経営課題の解決策を「デザ 構築する際のポイントを学びまし 法をもとに、自社の事業戦略を再 視点を用い販売戦略を検討する方 イン思考」の手法を取り入れ議論 講師から説明を受けました。第3 性や意義について、事例をもとに で経営戦略を検討することの重要 経営ビジョン」を明確にしたうえ カッション。第2回は、「経営理念 イデアをグループに分かれディス しました。第4回では、損益管理の 第1回は、新たな事業展開のア

れました。 引を開始した」などの感想が聞か ナーで出会った異業種との新規取 イスを今後の経営に生かす」「セミ 参加者からは「実践的なアドバ

のお客さまなど33人 催形式:オンライン、参加者:公庫 開催日:6~9月に全4回、 開

### みんなの広場

後も日が暮れるまで動

▲2年前から棚田で米づくりを始

ぶん改善され、

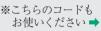
収量は推定で2割

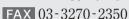
マです。海外からのサプライチェーン ❷特集は「持続可能な林業」がテー

ご意見・ご感想をお寄せください

『AFCフォーラム』は農林漁業者、食 品事業者の皆さまに役立つ誌面づくり をめざしています。参考になった記事、 取り上げてほしい企画、お気付きの点 など、メール、FAX、電話、郵送で編集 部までお寄せください。掲載させてい ただいた方には薄謝を進呈します。

#### メール anjoho@jfc.go.jp





電話 03-3270-2268

郵送 〒100-0004

東京都千代田区大手町1-9-4 日本公庫農林水産事業本部情報企画部 AFCフォーラム編集部あて

ど、はびこった雑草にも苦戦しま それほど苦にならないのですが かむと断水して、大事な時期に水 ます。また、途中のホースにエアが 降ると取水口がすぐ切れてしまい 水源が難しい。500%ほどのけ 度でしたが、「やめる」と聞き、 つい「私がします」と宣言しました。 の道経由で谷からホースで水 はました。親戚の棚田を手伝う程 朝早く出勤前に棚田に行き、 反 (5枚) 程度なので、 台風などの大雨が ノビエな 、つい うに感じられます。 増になりました。量もさることな きないかと思います。 若者や一般の方に教えながら耕作 の持続可能性を模索するのはどう を楽しみ収穫を喜ぶという視点で 毎日のご飯の味がブランド米の がら自分でつくった米はうま 点に切り換え、生業でなくても農 農地の事業承継は難しい問題 が、 ベテラン農家が、 権利ではなく利用という 指導者として

を引きますが、

み出す食の喜びにチャ を続ける、という選択肢を用意で 人を増やしたい。 いい。まず農を楽しみ、みずから生 農業を支えるなど理屈はなくて

がなくなります。そして、

引きました。すると2年目はずい

(宮崎県諸塚村

矢房

孝広

いられません。

われる「万物の多様性」を思わずには ました。巻頭言の山折哲雄さんが言 の生きる場所でもあることを認識し

抜きのコツを覚え、

ひたすら草を

年目は取水口を細工し、

エア

#### 編集後記

です。 かめ、 クロン株感染が拡大していますが ア関係者なども多いとのこと。オミ 入を検討するデザイナーやメディ 業」モデルはショックにぶれることな れる環境が戻ることを願うばかり 安心して現地を訪れ、 に来て、これら商品の質感を直接確 販売している木材・枝や葉は、現地 ❷「新林業人」の東京チェンソーズ。 違いない。必読です。 次世代へ向けた先進的な挑戦に イメージを膨らませながら購 商品に触れら (今村)

> とが財産」というお言葉が印象的で、 されている堀川会長。「貧乏したこ えています。国産材時代の風を起え 木や大型機械に圧倒されたの 当社工場を訪問し、ずらりと並 松支店に勤務していた5年ほど前 ❷「変革は人にあり」、中国木材の |変革の人| に熱く語っていただきま 会長にご登場いただきました。 を

は将来への持続性が問われています 記録するなど、林業・林産加工業界 われ国産材は数十年振りの高値を 停滞による「ウッドショック」に見舞

佐伯広域森林組合の「佐伯型循環林

に圧倒されるとともに、 見ることのない素の動物たちの迫力 真美術館での写真展を拝見、 品です。私事ですが、年末に東京都写 セイの動物写真家・宮崎学さんの作 ❷表紙写真は、今月のフォーラムエッ 、森林は彼ら 、普段は

■編集

前田 美幸 今村 潤 高雄 和彦 大谷 香織 城間 綾子 山本 晶子 竹中 夕美

■編集協力

青木 宏高 村田 泰夫

■発行

株式会社日本政策金融公庫 農林水産事業本部

〒100-0004

東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー Tel. 03 (3270) 2268

Fax. 03 (3270) 2350

E-mail anjoho@jfc.go.jp

ホームページ https://www.jfc.go.jp/

- ■印刷 株式会社佐伯コミュニケーションズ
- ■販売

株式会社日本食糧新聞社 T104-0032

東京都中央区八丁堀2-14-4 ヤブ原ビル

Tel. 03(3537)1311 Fax. 03(3537)1071

ホームページ

http://info.nissyoku.co.jp/koudoku/ お問い合わせフォーム

http://info.nissyoku.co.jp/modules/form\_mail/

■定価 523円(税込)